

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700270		
法人名	医療法人中西内科クリニック		
事業所名	グループホーム山川		
所在地	徳島県吉野川市山川町川東80番地		
自己評価作成日	平成26年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成27年1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は高越山のふもとに位置し、自然豊かで四季折々の風景を目にすることが出来ます。平坦な立地を生かして周辺を散歩したり、近隣施設との交流はもちろん、地域の方やボランティアの方の参加による行事を計画し、親しみやすく、地域に密着したグループホームを目指しています。隣接する医療機関により個々に応じた健康管理を図り、また24時間連携し利用者、ご家族が安心して過ごせるよう支援体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、様々な食事形態の利用者がいるなか、一人ひとりの日々の状態や食事内容等からできるだけ普通食で配膳するよう工夫と配慮を行っており、食への楽しみや意欲が沸き立つように取り組んでいる。また、事業所の菜園で野菜を収穫したり、食事の下準備や片付けをともに行うなど、家庭的な雰囲気がある。共用空間には、利用者が余暇に作成した作品や行事の写真を利用者の目線に掲示しており、思い出話を楽しんでいる。運営推進会議の際には、出席者から様々な意見を出してもらっており、積極的に事業所運営に反映している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が、理念の意味を理解し支援の根本としている。理念を共有して実践につなげることができるように、ミーティング時に復習し、再認識している。	全職員で、理念について話し合ったり、日々の実践を通じて振り返ったりしている。管理者が中心となって、職員とともに理念と事業所の役割や意義を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩支援時などにご近所の人と挨拶を交わしたり、地域の文化祭に出展したり、地域の保育所の園児たちが訪問してくれている。	法人として、自治会の活動に参加している。天候の良い日には周辺を散歩するなどして、利用者と住民との交流を大切に支援している。地域の文化祭に利用者の絵画等の作品を出展している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢化が進みマスコミで認知症を取り上げられることが多くなった昨今、以前に比べ理解していただけている。地域の行事に参加する事により、少しずつ理解していただけている実感がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域民生委員、地域の警察官の参加を得ている。地域の情報交換や苦情、要望、相談等、率直な意見交換の場としている。前回提案されたことは必ず検討してサービス向上に役立っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の家族にも出席してもらっている。事業所からは利用者の状況や抱える課題等を報告し、出席者と意見交換を行っている。出された意見について事業所内で検討して具体的に取り組むなど、サービスの質の向上に反映するようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの連絡等、定期的に情報交換を行っている。わからないことなど連絡相談を行い協力関係を築いている。またグループホーム連絡協議会に参加し個別に相談したり他の事業所と情報交換している。	2か月ごとに市が中心となって開催するグループホーム連絡協議会に事業所も参加している。日頃から、市担当職員に相談することのできる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で毎月、身体拘束委員会を開催している。身体を拘束することによって起きる危険性を理解し、職員全体で身体拘束ゼロに取り組んでいる。	職員間で“拘束を行わない”という姿勢を共有している。職員は、利用者に寄り添った姿勢で接しており、玄関も自由に出入りできるよう開錠している。職員の利用者に対する言葉のやり取りにも留意しており、人権や拘束について相互に確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修を実施し、高齢者虐待に関する知識を得るよう取り組んでいる。身体拘束委員会を利用し虐待についても話し合い小さな事でも虐待につながる行為は見逃さないようお互いが意識あっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を活用している入居者がいる。職場内外研修を利用し職員全員が理解できている。今後は運営推進会議などを利用してご家族に伝えていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その時々で、入居者、ご家族が納得していただけるまで十分説明するように心がけている。その後不明点疑問点などが出来た際にも相談に応じ理解、納得していただけるように十分説明し対応させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議などの際、ご家族に意見、要望をお聞きし今後の運営に反映できるように努めている。ご家族が面会時等意向を伝えやすい雰囲気作りを努めている。苦情受付窓口として目安箱を設置している。	事業所の運営に家族の意見を反映するよう取り組んでいる。家族と事業所で協力し合って、利用者の支援を行うことができるよう努めており、良好な関係を構築している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士が信頼関係を保てるよう話し合いの場をもちコミュニケーションを図っている。必要に応じて個別相談も行っている。職員間での報告、連絡、相談のシステムを構築している。	管理者は、職員が事業所の運営面やサービスについて意見を提案しやすい雰囲気づくりに留意している。相互の信頼関係の構築にも努めており、処遇面についても話し合うことのできる関係となっている。なお、管理者は、職員から出された意見を法人本部へ提案するなどして、運営面や職場環境の改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの働きやすい職場の価値観が違う為管理者として、それぞれが自分の意見を言える職場作りに努め、皆で事業所を支えていくという気持ちで働いてもらえるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に法人内での研修を行い、外部研修にもできるだけ参加出来るよう情報提供、学べる場の提供を行っている。また、研修後、他の職員にも学んでもらえるように伝達研修や資料配布を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に定期的に参加し研修を受けるだけでなく、他の事業所との意見交換、情報交換を行い意識向上、サービス向上に反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居された時の不安感を十分理解し、何につけても第一にご本人の意向を確認し声をかけながら信頼関係を築いていき、その中でアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からホームに対して本人へのサービスの意向や困っていることを入居時に率直にお聞きしている。その後も面会時や担当者会議で意向をお聞きし、よりよい信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から意向をお聞きし、意向に沿った、且つ自立支援に向けたサービスを日常生活の中で色々な角度から支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に同じ空間の中で過ごしていることが信頼関係を深めている。出来ない部分を何気なく助けているような支援を行い、理念に基づき「みんなで一緒に支え合う」環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には定期的に本人の状況をお知らせし、情報交換を行っている。面会や行事参加など家族の絆が保つことができるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族から今までの友人関係や社会との関係を聞き、把握し知人友人の面会などにより関係が保てるように支援している。	事業所では、利用者が電話をかけたたり、手紙を出したりする支援を行っている。家族と相談を行ったうえで、利用者一人ひとりが馴染みの関係を継続して行うことができるよう支援している。事業所として地域の文化祭への作品展示を通じ、利用者一人ひとりの趣味の継続や馴染みの人との交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が連帯感を持って、お互いできないところを助け合い、支え合いながら生活できるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも、相談を求められた際には、本人の習慣や好み、支援方法など必要に応じて相談にのり支援するように努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らしの延長として生活を続けていただけるようにこれまでの生活習慣や希望、意向をお聞きしている。困難な場合は本人のホームでの暮らしの中から習慣や、意向を見いだすように努めている。	職員は、利用者と家族との会話に参加させてもらったり、日頃の暮らしの中で一人ひとりの言動に寄り添って接したりすることで、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な方には、ゆっくりと寄り添い、表情や気持ちの変化を汲み取ったうえで、全職員で話し合って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人を始めホーム入居前に関わった事業所などから本人の生活歴などの情報を得、職員全員が把握し更に入居後も連携をとりながら本人が安心した生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で一人ひとりの暮らしの流れを把握しながらそれぞれが持つ、できる力を見つけ出せるように声をかけたり、一緒に役割を行ったり現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員がモニタリングに関わりケアを評価している。家族、関係者、現場の声も含め参考にして介護計画を作成している。	家族や関係者の意見を聞いたうえで、全職員で話し合って介護計画の作成や見直しを行っている。職員間で利用者一人ひとりの短期目標を共有している。サービス担当者会議には、家族にも参加してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録として、職員が介護記録を作成し個別ファイルで管理している。また、ケアマネジャーの支援記録も同じファイルで管理し職員全員が情報を共有しケアに活かせるように支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活を営むに於いてその時々生まれるニーズはよくあり、その時々で家族や関係者と協力しあい柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が地域の一員として安全で豊かな生活が送れるように運営推進会議などで地域の方との情報交換を行ったり、地域の保育園児たちが訪問してくれたり、地域との触れ合いを大切にするよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関が主治医となっており24時間の対応が可能な体制を構築している。必要に応じて専門医の受診を支援している。	利用開始時の段階で、本人や家族の納得を得て、同一法人の運営する医療機関を主治医としている。専門医の受診時には、家族と連携を図ったうえで支援している。受診後は、結果を家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体医療機関の看護師と密に連携を図り、必要に応じて医療の支援を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活の様子や状態などの情報を医療機関に提供しスムーズに移行できるように支援している。入院中での状態など医療機関と情報交換を行い、早期退院の実現に向けて取り組んでいる。また、家族の相談にのり不安の軽減に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関する指針を定め、入所時または状態に応じて事業所が対応し得るケアについて説明している。	事業所として、利用者の重度化や終末期に関する指針を定めている。利用開始時の段階で、事業所の対応方針等を家族に説明し承諾を得ている。本人や家族の意向を最優先として取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、連絡網を整備している。また、定期的に見直しを行い、実践に役立つようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回、避難訓練を実施している。備蓄品を用意しており、実際に炊きだし訓練を行っている。火災時には民生委員の協力をお願いしている。	夜間想定を含め、年2回の避難訓練を実施している。地震対策として家具等の転倒防止を行っており、水や食料、日用品等の備蓄品も準備している。市の定める指定避難場所への移動体験等も実施している。地域の民生委員に災害時の協力依頼を行うなどして、地域との協力体制づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の一人ひとりの尊厳を守り、プライドを傷つけないような声かけや支援に努めている。	日頃の利用者との生活を通じて一人ひとりの特徴の理解に努め、本人を尊重した対応を心がけている。利用者の誇りやプライバシーを損なうことのないよう全職員で確認し合い支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かの支援を行う際にはまず意向を伺って意向に基づき支援に努めている。自己決定、意思表示が十分に出来ない場合には表情や行動を注意深く読み取りその人の思いを代弁できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる1日の流れはあるがその時々、状況に応じて柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、整髪、ひげそりなどの整容面のほか季節に応じた衣類や本人の気持ちに沿った着たい衣類を調整している。女性は特に整髪面でその人に似合う髪形に調整支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を目で見えて楽しむ、食欲を引き出すなど、盛りつけに工夫をし利用者に応じた形態で提供している。準備、片づけなど出来ることを一緒に行っている。ホーム菜園で作った野菜を一緒に収穫し、料理に使用している。	様々な食事形態の利用者がいるなか、一人ひとりの日々の状態や食事内容等からできるだけ普通食で配膳するよう配慮しており、食への楽しみや意欲が湧き立つよう工夫している。利用者と職員は、事業所の菜園で野菜を収穫したり、食事の下準備や片付けなどを行ったりしている。ときには庭先でおやつを楽しんでもらうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立を調理している。治療食が必要な方には意思の指示のもとに調整している。入居者一人ひとりの様子を観察し体調に応じた食事や食事形態を工夫し、好みの飲み物も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全員が研修を通して口腔ケアの大切さを理解している。毎食後、各入居者に合った口腔ケアの支援を行っている。義歯は毎食後の洗浄のほか、夜間に消毒保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は重点的にトイレ誘導を行い、夜間は各入居者に応じてパット交換、トイレ誘導、ポータブル利用を支援している。	利用者一人ひとりの排泄状況の把握に努めている。日頃から廊下やリビングでの歩行、また立位姿勢等の軽い運動を取り入れることで、円滑な排泄へと繋げるようにしている。日中は、利用者全員がトイレで排泄することができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事、適度な水分の提供だけでなくラジオ体操や歩行などにより身体を動かしてもらっている。身体が動かしにくい方には入浴等で腹部を温めたりもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本としているが、本人の希望により、毎日でも入浴が可能となっている。入居者一人ひとりの能力や意向に合わせて支援している。入浴を拒否がちな方には時間や日をずらすなどして対応している。	週2回の入浴を基本としているが、本人の意向に応じてそのつど対応している。また、入浴を拒む利用者には、時間や日をずらしたり、気分の変化に寄り添ったりして、気持ちよく入浴してもらえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や生活リズムを考慮しながら日中の活動を支援し、夜間に安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を職員全員が読めるようにファイリングしており、薬が変更になるたびに看護師による説明を申し送っている。こまめな様子観察により体調の変化が早期発見できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味などを本人や家族から聞いたり、日常生活から見出し得ることを続けてもらえるように、楽しみにつながるよう支援している。レクや散歩などを行い気分転換や楽しみにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日には日向ぼっこや散歩、外出支援を取り入れている。入居者の楽しみにつながるような計画をたて実践している。ご家族とお墓参りに外出されたり法要にも参加される予定の方もいらっしゃる。	天候の良い日には、事業所の菜園や周辺の散歩、近隣の商店での買い物等の外出を楽しんでもらっている。家族の協力も得たうえで個別の外出支援へと繋げている。花見や菊人形、ドライブ、文化祭などの行事としての外出も取り入れており、生活に変化のある支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム山川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことの大切さは理解しているが法人内で金銭管理の取りきめがあり、本人が希望する物品は家族の了承のもと、一緒に買い物をしたり、職員が代行で購入したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月、家族たよりを発行しており、その際本人の希望により家族への言葉を書くように努めている。電話も本人の希望により随時対応している。ご家族や知人からの電話を受け継いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく、開放感のある空間が提供できるように季節の花や写真を飾ったり、不快感を招かないように清潔にし、適温を保っている。菜園では野菜を育てたり、ゴーヤや朝顔で緑のカーテンを作る事によって季節を感じると共に、夏の日差しを和らげている。	共用空間には、利用者一人ひとりの個性や特徴に応じて椅子やソファを設置している。職員は、つねに寄り添って接しつづ会話をするなど、和やかな雰囲気づくりを行っている。利用者の作品や行事の写真、季節の花を飾るなどして、家庭的で居心地良く過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではテレビを見たりソファでくつろいでいただいで思い思いに過ごすしてもらっている。それぞれの居場所が確保できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や趣味等の持ち物がある方には持ち込んでもらっている。居心地の良い空間づくりを支援している。	事業所では、利用者に馴染みの品物や写真、思い出の品等を持ち込んでもらうようになっている。また、本人自身が好きな洋服を選んで着ることができるよう、さりげない支援を行っている。利用者一人ひとりにとって使い勝手が良く、落ち着いて過ごすことができる居場所となるような環境づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の前には自分の部屋がわかるように絵や折り紙で追った花をつけて間違いが少なくなるように工夫している。手すりのある廊下もまっすぐで死角が少なく、安心して移動できるように工夫されている。		